

自 平成28年4月 1日
至 平成29年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成28年度

事業報告書



公益財団法人ハーモニィセンター

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター内

電 話 03-3469-7691

FAX 03-3469-7714

目 次

1. 概況	・・・	2
2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	・・・	3
2－ 1 ポニーキャンプ		
2－ 2 蓼科ポニー牧場事業実施状況		
2－ 3 相馬ポニー牧場事業実施状況		
2－ 4 小貝川ポニー牧場事業実施状況		
2－ 5 目黒区碑文谷公園こども動物広場事業実施状況		
2－ 6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場事業実施状況		
2－ 7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場事業実施状況		
2－ 8 万騎が原ちびっこ動物園事業実施状況		
2－ 9 板橋区こども動物園本園、高島平分園、昆虫公園事業実施状況		
2－10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場業実施状況		
2－11 海老名ふれあい動物施設事業実施状況		
3 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	・・・	9
3－ 1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）		
3－ 2 帯広畜大プロジェクト（仮称）		
3－ 3 治療的乗馬研究集会		
3－ 4 栗島浦村支援		
3－ 5 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業		
4 川べり環境の整備及び活用の推進	・・・	10
4－ 1 カヤック教室・水辺でのプログラム		
4－ 2 河川騎馬パトロール		
5 国際文化交流、国際相互交流活動の推進	・・・	10
5－ 1 プロジェクトM		
5－ 2 日独青少年相互交流計画2015		
6 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	・・・	11
6－ 1 機関誌の発行		
6－ 2 夏キャンプ募集チラシの発行		
6－ 3 WEB広報		
7. その他	・・・	11
7－ 1 規程変更		
7－ 2 馬の管理		
7－ 3 会議等		

1. 概況

平成 28 年度は、年度が始まったばかりの 6 月に代表理事をはじめ理事の半数が交代し、職員体制に手を加えるなど大きな変更が生じたため、大半の時間を運営体制の再構築に費やす 1 年となった。

前体制は解体する結果となったが、長年の課題とされながらうまく進めることのできなかった職員の待遇改善や、各事業所間のお金のやりとりの明確化、公益法人として法が求めるあり方により近づける努力が積極的になされた。こうしたよい面は継続しつつ、一方で見失ってはならない「ハーモニィセンターらしさ」をより明確にするための取り組みを行うことが、体制再構築の基本方針となった。

ハーモニィセンター設立の礎となった、個々には大きな力を持たない若者の熱意と善意によって支えられ、形づくられてきた活動と、多数の職員を抱える公益財団法人として果たすべき労働環境充実の取り組みの間には、相容れない部分がある。両者のバランスを取ることは、同様の青少年団体が共通して持つ悩みではないだろうか。実際、この年度に取り組んできた労働環境向上の取り組みの中には行きすぎたものもあり、決算の赤字につながる遠因となったことは否めない。

しかし、こうした取り組みは、思わぬ利点も生んだ。体制再構築について理解を求めるために行った財政状況の積極的な公開や新しい制度についての説明・意見収集は、これまで団体運営にコミットしてこなかった（あるいはさせてもらえなかった）各施設の場長やスタッフ一人ひとりに危機感を生じさせ、一人ひとりが我がことととらえ、積極的に発言する空気を作り出した。ここから、自主事業の活発化のための取り組みが進んだり、経費節減が当たり前と考えられるようになったことは、怪我の功名とも言えるだろう。

一方、各事業所での活動は概ね活発に実施された。碑文谷公園こども動物広場における「親子動物クラブ」や麻溝公園ふれあい動物広場における「ビストロモーモー（牛のエサやり体験）」など、参加者やその保護者の幅を広げたり、理解を深めてもらうための多くの取り組みは今後の活動の充実につながるものと考えられる。

2. ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

2-1 ポニーキャンプ

○計画との差異とその要因

- ・ 夏のポニーキャンプは定員を減少した（80名→70名）ことで参加者減。冬は昨年度より1コース増やし、長岡との交流事業も初めて実施し、集客増。
- ・ スキーキャンプは昨年度より2コース増。ファンスキーは3名と伸びなかったが、六日町は21名と多くの参加者が参加した。
- ・ 八ヶ岳縦走キャンプは初めて定員（20名）に達する。奥秩父野外キャンプも参加者増。（18名→21名）野外キャンプへのニーズも感じられた。

◎ 事業結果（詳細はデータ集参照）

○長期キャンプ…学校の長期休業中（夏、冬、春）に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jrカウンセラー
①	蓼科ポニー	13	41	689	167	15
②	相馬ポニー	0	0	0	0	0
③	下郷ポニー	0	0	0	0	0
④	小笠原海浜	0	0	0	0	0
⑤	八ヶ岳登山	1	3	20	2	2
⑥	南志賀スキー	2	9	53	10	5
	計	16	53	762	179	22
	27年度	18	62	724	180	31

○短期キャンプ…週末、連休に実施したもの。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	蓼科ポニー	6	17	113	22	2
②	奥秩父野外	1	2	21	3	4
③	河口湖スケート	2	5	31	9	2
④	ファミリー(蓼科)	5	6	69	24	0
⑤	蓼科ファンスキー	1	2	3	1	0
⑥	六日町スキーキャンプ	1	2	21	4	0
	計	16	34	258	63	8
	27年度	19	30	393	97	0

○受託キャンプ…外部からの依頼で実施したキャンプ。

	キャンプ名	実施回数	泊数	参加者	カウンセラー	Jr カウンセラー
①	東日本被災地の子ども達にキャンプを贈る会	1	3	9	0	0
②	いちごっこキャンプ	1	2	10	4	0
③	長岡っ子(蓼科)	2	6	66	12	2
	計	4	11	85	16	2
	27年度	17	48	158	7	10

2-2 蓼科ポニー牧場

1. 宿泊団体の牧場利用

自由学園5年生の宿泊型学習体験旅行、大学のボランティア研修以外は週末受け入れ。カウンセラー・キャンプっ子OBのグループ利用があり昨年同様参加者の多い、広場キャンプの回数が多く行われ、広場キャンプがなければ週末の利用は空きのある状態が多くなることは確実。回数は昨年度と変わらないが利用者数が少なくなっている。

全15回。参加者数は287名。

2. 日帰り団体の牧場利用（別紙）

3. 蓼科ジュニアポニークラブ（TJPC）

小1～中3が対象。高校生OBのボランティア参加可。月2回実施。年間を通じた活動の大半に父兄が関わる。地元中心ではあるが、東京からの参加者2名あり。レベル・内容の維持、保護者一丸となつての活動であることを考慮すると、定員30名が妥当な規模だと考えられる。新規参加者2名 月謝制¥5,500/1名。

計	述べ参加者数	行事
22回	300名	前後期保護者会（年間活動・役員選任）合宿（牧場内）ライダーズカップ、長野ホースショー

4. 移動乗馬教室

東京近郊の移動乗馬教室は相模原や小貝川より出向いているため蓼科の馬運車の稼働率が減っている。

5. 牧場レッスン・引き馬

牧場レッスン・引馬は2014年並みに減少している、GW・お盆の時期は平年と変わらないが週末のレッスン予約が減っている。

6. その他

(ア) わんぱくポニー村（期間8月1日～8月20日）

観光客を対象として蓼科湖畔にて引き馬乗馬、人参のえさやり体験を実施。2016年をもって閉鎖。

(イ) デイキャンプ（参加者数20人）

三井の森別荘を中心として1日夏休みポニーキャンプに体験参加するもの。

(ウ) ポニーステイ

長野県伊那市立伊那小学校にシルフィードを、諏訪高島小学校にゴマシオを無償貸与。

【まとめ】

2016年度は週末の事業日程が少なくレッスンも減ってきている状況であった。

キャンプのない週末が多く週末の利用をあげることが必要。

蓼科の馬運車の稼働率が低く馬運車の稼働率をあげる事業を考える必要がある。

2-3 相馬ポニー牧場

施設の利活用という点では、南相馬市地域復興プログラムにおける除染物質の仮置き場として前年度に引き続き放牧場を、南相馬市内の通所施設運営団体に職員宿舎を貸与した。（29年度も継続）した。また、元牧場長である原田晃氏と業務委託契約を結び、牧場全体の管理や前述の受託キャンプ（キャンプを贈る会、宮城県亙理町のNPOが主催するいちごっこキャンプ）のサポート、地域との連絡調整、情報収集にあたってもらった。

2-4 小貝川ポニー牧場

1. 概況

○ 若手中心の配置となったこともあり、職員のスキルアップ・馬の育成に十分に手をかけられなかった。

それでも、減った部門はあるものの総合的には前年度より利用者数の増加になっている。

- 老齢馬問題が依然として残っている。昨年度入ったポニー2頭は順調に調教が進み、今後移動乗馬教室にも馴らしていく。
- 生き生きクラブ、館内扉の開閉不具合が頻発。改修を行うかどうかは取手市と協議中。

2. 乗馬関連：

- 3年連続引馬の利用者数が増加している。今年度はHPを閉鎖していたにも関わらず人数が増えたのは、15年の積み重ねにより、牧場が休日の過ごし方の選択肢に含まれるようになったからという感触を得ている。
- 団体利用の減少
天候不良等の理由もあるが、宿泊が完全禁止になったことが大きい。
- 馬場レッスン利用者の増加、外乗利用者の減少
馬場レッスン利用者の年齢層が70%弱60代以上なため、リスクのある外乗よりも馬場レッスンを好む傾向がある。
- ポニー教室参加者の減少
卒業、アレルギー、家庭の事情等により数名が退会。現在は17名。
ただ4月に4名、体験希望有。

3. 移動乗馬教室/移動教室/移動動物園

天候により中止になったものもあるが、逆に前年度に中止になったものが行え、前年度と大差なく開催できた。先方が希望した時のみ予備日を設定している。

職員の外部研修参加

氏名	研修名	日程	参加人数
船木萌	動物取扱責任者講習会	6月30日	1名
佐々木遼	装蹄師協会主催 馬学講座	1月22日	1名
高岡日香留	食品衛生責任者養成講習会	3月22日	1名

2-5 目黒区碑文谷公園こども動物広場

- 指定管理者として3年目の年。
- 今年度はふれあいコーナー・引き馬の利用者数が大きく減少した(合計91974人→66100人)。6月の碑文谷公園弁天池事件の影響が大きい。事件後6月23日から7月21日まで、捜査等のためふれあいコーナーが閉園、7月22日より再開したが、引き続きの捜査・防犯整備のため、10月3日まで公園への立ち入りが出来なかった。日頃の様子から、特に乳幼児連れの家庭において、公園・ふれあいコーナー・引き馬を組み合わせた時間の過ごし方が好まれる。「事件の怖い印象が残った」等の利用者の声に加え、賑わいを見せる9月を含めその実現が難しかったため、足が遠のいたと思われる。2月に入り、例年の勢いを取り戻しつつある。
- 一方、ポニー教室(個人)・動物クラブの利用者数は増加した(合計7484人→8853人)。子ども達や保護者とのコミュニケーションを一層大切にしたいほか、チャレンジできる軽乗技の種類増加など、活動内容の充実を図り、好評を得たものと受け止めている。
- 弁天池事件をきっかけに、碑文谷公園・碑文谷体育館・碑文谷公園くらぶなど、地域との繋がりを再認識した今年度。個人ボランティア数は、地域の方々からのオガクズ・野菜の提供など、地域との繋がりを表す一つの目安と考えている。年度を重ねるごとに減少傾向にあるため、今後も一層大切に広場を運営していく。
- 5月15日にポニーまつりを開催した。特に親子乗馬・乗馬体験レッスン・にんじんあげに好評をいただいたほか、今年度は熊本地震チャリティーバザーを実施し、17620円を寄付した。また、碑文谷公園くらぶや区内障害者施設の方々も出店し、ご協力いただいた。ポニー教室(個人)・動物クラブ参加者によるお手伝いは、前年度の32名を上回る55名となり、加えて保護者・カウンセラー等多くの方の力添えにより、まつりを盛り上げた。今後も地域との協働を視野に入れながら運営を行なう。
- ミニイベントを10回開催した。人気の「小動物へのエサあげ」や「犬の芸発表会」のほか、赤ちゃんモル

モットの観察や馬の気持ち・走り方、軽乗について学ぶ機会とする等、より身近に親しんでいただく時間を心がけた。また、「大人も乗りたい」との声をいただいていたため、大人・親子乗馬デーを4回開催し、合計402組の親子、77人の大人にポニーの魅力を味わっていただいた。

- 11月20日・27日の2日間、親子動物クラブを実施した。日頃子ども達が取り組んでいる動物クラブの活動を、保護者にも一緒に体験してもらい、子ども達が何を考え感じているかを知ってもらうことが目的。前年度に初めて試み、日数や受け入れ家庭を増やしての今回となった(計6家族参加)。
「子どもの話を聞くだけではわからないことを一緒に体験できてよかった」「動物飼育や接客など、思っていたよりしっかり活動させてもらっている」といった保護者の声が印象的で、実施目的にかなう内容を行うことが出来た。活動への保護者の理解を深め、一層の利用向上を目指していきたい。
- 2月25日、板橋区立こども動物園にて、相模原・碑文谷・板橋合同の動物クラブを実施し、5人が参加した。日頃とは異なる広場で動物の飼育に携わりながら、初めて会う子ども達とともに時間を過ごし、刺激を受けた一日となった様子である。
- 5～7月・1～2月、毎月1～2回のカウンセラー研修を行なった。合計50人が参加し、馬装や乗馬、実際のキャンプを想定した練習など、キャンプに向けて精力的に活動した。
- 今年度も日本獣医生命科学大学のボランティアサークル(AKS)と協力し、広場で定期的に研修会を行い、馬の引き方や手入れ方法のほか、小動物飼育や子どもと過ごす時間も大切に伝え、普段のサークル活動に活かしてもらえるよう心がけた(合計47人参加)。また蓼科ポニー牧場にて合宿を行ない、経験を重ね、大学主催の移動乗馬教室等を開催した。
- 1月14日・15日、蓼科ポニー牧場にて、碑文谷キャンプを実施した。19人が参加し、日頃広場で培っている力を大いに発揮しながら、一味も二味も異なる牧場生活の中、貴重な時間を過ごした。その後、財団が運営するポニーキャンプに興味をもつ子どもや保護者が増えた印象があり、広場と同様、今後も魅力を発信していきたい。

2-6 葛飾区水元中央公園子ども動物広場

11月30日から1月14日まで馬場柵の改修工事を行ったため、馬場を片面ずつしか使えず、乗馬の回数が減ってしまった。その分体操や馬の手入れなどに力を入れることで、馬に乗る前の基礎体力作りや馬に対する知識を得ること、思いやりの心を持たせることを目指した。

かつしかポニーキャンプを年2回シリーズで実施、好評のため平成29年からは年3回に増やす。

平日教室では安全確保のため、曜日ごとに乗馬を行う学年を分ける。火曜日と木曜日は1年生から3年生、水曜日と金曜日は4年生から中学3年生、土日は午前午後で学年を分ける。

(1) 軽乗出張演技披露

- 4月 「水元公園こどもまつり」：葛飾区主催
- 10月 長岡ポニーカーニバル：新潟県長岡市主催
葛飾スポーツフェスティバル2017：葛飾区主催

(2) 特別行事

- 4月 新入生保護者説明会
- 5月 キッズフェスタに参加 ダブルダッチの披露
- 6月 区民誰でも乗馬会
全体保護者会
- 8月 子どもまつり
かつしかポニーキャンプ秋
- 10月 キッズフェスタに参加 ダブルダッチの披露
- 12月 クリスマス音楽会、第14回皇居マラソン大会
かつしかポニーキャンプ冬
- 2月 区民誰でも乗馬会
- 3月 ポニースクールかつしか卒業式

(3) 特別活動

- ・ 「介護予防シニア乗馬」：葛飾区役所高齢者支援課より受託。葛飾区在住65歳以上の方が対象。隔週で行い、3回で1シリーズ。体操・乗馬練習に取り組む。(年3回実施)

- ・ 「ふれあいスクール明石」：葛飾区内の不登校児（小4～中3）が対象。月1回ポニースクールで、体操・馬房掃除・乗馬練習・手入れを行う。（月1回、年7回実施）
 - ・ 「水元特別支援学校教員研修」：初年度教員が来場し、馬房掃除、乗馬体験、引き馬練習を行う（年1回）。学期の締めごとに教員が来場し振り返りを行う。
 - ・ 合同軽乗練習会：元職員が勤務するクローバー牧場（山梨県南都留郡）の子供達と、合同で軽乗練習を行う。（年1回）
 - ・ 隔年で交流を続けているドイツから青少年交流事業の一環でマイケさんが来日、ポニースクールで半日軽乗の指導をしていただき、ドイツでお世話になった子ども達と再開を喜び合った。
- (4) 取材・雑誌掲載・視察
- ・ 雑誌掲載：HANAKO papa
 - ・ 視察：江戸川ポニーランド職員
- (5) その他
- ・ 「新宿フェスティバル」：新宿地区が主催するイベントに依頼を受け移動乗馬を行う。
 - ・ 全体保護者会を実施。曜日ごとに乗馬日を分ける説明、区役所が行ったアンケートについての回答。その他質疑応答。

2-7 相模原市麻溝公園ふれあい動物広場

5年間運営を任された指定管理者として、4年目となる平成28年度は、冬季の利用者の増加傾向を強く実感できる年だった。ポニー乗馬、小動物とのふれあいの人気は昨年度並みであった。新たな提案事業の開拓として、近隣施設とのコラボレーション企画に着手。相模川ふれあい科学館（アクアリウムさがみはら）の協力のもと、期間限定の水棲生物展示企画「すいちゅーどうぶつ広場」を実施した。また、人気の動物へのエサやり体験では、一年かけて試行した「ビストロモーモー（牛のエサやり体験）」を提案事業として本格実施。予てから利用者の要望として多かった「もっとエサやりを増やしてほしい」の声に応えることができ、新たな動物広場の楽しみ方を提供できたと同時に収入面の貢献もあった。

8月には動物広場独自の防災避難訓練を実施。これをきっかけに動物広場の防災マニュアル・安全管理マニュアルの修正を行なった。また、2月には近隣施設と合同で予防救急・救急車の適正利用について相模原市消防局救急課の職員を講師に招いての講習会に参加した。いずれも職員の危機管理意識の向上につながった。

(1) 各種プログラム

基本事業であるポニー乗馬、小動物とのふれあい、動物の展示、子ども動物クラブ、動物広場フェスティバルの他、以下の提案事業を実施した。

【指定管理者提案事業】

1. 子どもポニーボランティア
2. 親子二人乗り乗馬(引き馬)
3. 親子ポニー教室
4. 出張動物教室
5. さがみはらっこポニーキャンプ
6. 羊毛クラフト
7. 動物へのエサやり体験
8. 特別プログラム（雨天特別プログラム、大人のパニー乗馬など）

(2) 取材

新聞では、神奈川新聞などで酉年特別企画（年賀状用写真撮影）の紹介記事が掲載された。その他、「武相新聞」「るるぶ」「まっぷる」などの遊び場紹介誌にも多数掲載された。

2-8 万騎が原ちびっこ動物園

28年度は、小さな子どもでもハツカネズミとのふれあいがし易いお椀の導入や、ふれあいコーナー混雑時の入れ替え制の導入など、新たな試みを複数実施した。

それによる利用者からのクレームも無く、公園利用者の憩いの場としての機能を果たしている。

また、本園である野毛山動物園から動物飼育に関するアドバイスも多く頂いた。一例として、冬季の獣舎防寒に養生用のシートを活用。外気が入らないようするなどして、動物の健康が損なわれないようにした。

こども自然公園内の青少年野外活動センターやNPO法人どろんこクラブなどとも良好な関係が続いており、夏の動物園お手伝いキャンプや移動乗馬など、各種イベントを実施した。

2-9 板橋区こども動物園本園、高島平分園

入園者数は、全体では増加しているが、細かく見ると動物クラブの参加が減少しており、ここに課題が感じられる。

今年度初めに職員が半数入れ替わったことで常連の来場者の足が遠退いた事も原因であると思われる。

動物園を1日動物クラブで貸しきる企画を年末に、初めて行った。(30名ほど参加)遠退いた動物クラブの子供たちが参加し易いよう、定期的に企画を考えるなど、対策をとって行きたい。

2-10 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

平成28年10月より平成31年9月までの3年間、葛飾区との契約が出来た。

1年間、目立ったトラブルもなく運営することができた。

また、年間の利用者総数については前年度比3%強伸びた。

出張動物園、職場体験、動物愛護クラブ、ポニー教室活動、団体利用についても昨年同様の活動を行ったところ、活動はより活性化した。

仕様書に沿って活動しているので、時間的には十分とは言えないが、短い時間の中で利用者が十分に満足できる内容のプログラムの提供が行われた結果であった。

2-11 海老名ふれあい動物施設

昨年度と来場者の比較をすると大きく減っているのがわかる。原因として大きく天候が関係し、派遣業務の増加もあげられる。

天候の面では、27年度と比べて終日中止になった日は9日も多く、週末に雨が降ると(雨天中止…半日中止も含む)、多い日は200名を超える来場者が100名にも満たない状況になる。

28年度はシルバーウィークと言われる9月の連休がほぼ雨の為、馬車を運行する事が困難だった。27年度とのシルバーウィークだけの比較で言えば、引き馬は500名減、馬車については900名減と大幅な減少となった。

28年度は派遣が増え、公園にチョコ、ミルク(ポニー名)がないということが多かった。公園内に2頭がないことで利用者対応ができず、利用者数減につながった。

今後、相鉄企業(運動公園全体の指定管理者)と協議し、派遣時の公園対応の方法について改善し、利用者の減少を食い止めたい。併せて、園内企画を増やし、来場者・利用者の増加を図りたい。

○ 親子ポニー教室の応募者多数

毎回応募人数は多いが、今年度は予想を超える応募があった。(60組の定員に対して199組の応募)市役所の担当課の職員の方のご協力により、全ての保育園、幼稚園児にチラシを配布することができた。その甲斐あって、多くの応募があったと考えられる。今後は多くの応募者に対して対応できるプログラムの変更や柔軟性に富んだ日程変更を行えるよう、相鉄企業と協議してゆく。

○ 派遣増加

27年度は15件だった派遣依頼が28年度は24件に増加した。

新たな依頼と、27年度は依頼がなかったところが再び依頼をしてくれたという事があった。以前はモルモットのふれあいの依頼が少なかったが、28年度は多くの会場へモルモットを連れて行き、喜んでもらえたと感じた。

今後は市役所や相鉄企業にご協力いただきながら、福祉施設等への訪問を行い、派遣数を増やしたい。

3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

3-1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）

9月11日から17日、9月25日から10月5日まで小学校、さいわいプラザ等15ヶ所を6頭のポニーとカウンセラー、スタッフで回り、小学生から高齢者まで、大勢の方にポニーとのふれあい、乗馬を体験していただいた。10月2日には恒例のポニーカーニバルが行なわれ、ポニースクールかつしかの子ども達が軽乗演技を披露した。

3-2 帯広畜大プロジェクト（仮称）

昨年度に引き続き、障がい者乗馬、軽乗、乗馬指導、馬事普及の講師として1年間、職員を派遣し、以下の事業を実施した。また、馬術部馬・外来傷病馬を除いた、馬介在活動室馬・繁殖実習馬の飼育管理・乗用馬トレーニング・傷病馬等の看護・管理等にも従事した。

○ 帯広市連携事業

障がい者乗馬（全14回）、不登校児対象の乗馬教室（全6回）、帯広少年院との連携事業（全1回）を行う。前年度より開催回数の増加。障がい者乗馬では定員を超える申し込みがあった。

○ 大学行事

全1年生を対象とした全学農畜産実習乗馬体験（全12回）、家畜生産学乗馬実習（全3回）、馬を使用した獣医学実習（全6回）、オープンキャンパスに技術補佐員として参加。

○ 軽乗

本年は見本演技等は披露されなかったが、馬介在活動室うまぶが中心となり、部員練習を再開し、次年度の披露・普及に向け実践中である。尚、その際畜大馬術部武曾部員（現在ポニースクール葛飾新人職員）の協力が非常に大きかった。

○ その他事業

- ・豊頃小学校特別支援学級乗馬体験
- ・下音更小学校特別支援学級乗馬体験
- ・池田小学校特別支援学級乗馬体験
- ・帯広盲学校乗馬体験
- ・サークル（うまぶ）を設立し、帯広市内の小中学生を対象とした乗馬会を7回開催

3-3 治療的乗馬研究集会

特定非営利活動法人日本治療的乗馬協会が主催し、当団体を含め一般財団法人日本障害者乗馬協会、特定非営利活動法人RDA J a p a nの3団体が共催して、1月14日・15日に第12回「治療的乗馬」研究集会を開催した。その中の企画・運営に参画し、さらに動物広場における実践報告も行った。

3-4 粟島浦村支援

かつてのハーモニセンター同様、国内留学（しおかぜ留学）を実施している粟島浦村（新潟県岩船郡）より村内の施設、粟島浦村ホースパーク運営に関する支援要請を受け、10月から12月にかけて、各月1週間ずつ職員を派遣し、施設整備、飼養馬の管理や子供たちの指導に当たった。粟島浦村ホースパーク運営委託の打診もあったが、村内の合意形成、条件整備を優先させること、従事職員の研修受け入れといった形での今後の支援を提案した。

3-5 馬から学ぶオリンピック・パラリンピック事業

東京スタジアムにおいて2020オリンピック・パラリンピック競技大会の近代五種が開催される予定となっていることから、会場から近い三鷹市が子供たちに競技への関心を持ってもらうと同時にスポーツに親しみ、体力・運動能力向上を図ることを目的として企画された事業。

三鷹市立第一小学校において、3年生100名を対象にポニー乗馬、世話を体験すると共に、馬という動物についての講義を4回実施した。（4年計画の1年目）

4. 川べり環境の整備及び活用の推進

4-1 カヤック教室・水辺でのプログラム

今年度もハーモニセンター評議員であり、NPO 法人川に学ぶ体験協議会事務局長である斉藤氏にお願いし、カヤックの講習を平日の午前中に企画。また、プログラムへの講師派遣も依頼。

また、プログラム費用を値上げしたにも関わらず、前年度を超える参加者数となった。障害児・者の利用増が理由と考えられる。

10月に開催されたウェルネスフェスティバルのEボート大会では、例年通りNPO小貝川プロジェクト21の皆さんと連携を取りながら開催した。大雨の中の開催にも関わらず、大盛況となった。

4-2 河川騎馬パトロール

勤続年数が少ない職員が多かったため、今年度に関しては縮小し、経験と勉強の年とした。

昨年度に行った河内町でのプログラムについては継続しつつ、回数を減らした。

1月16日、荒川上流河川事務所西浦和出張所にて国土交通省が企画する河川協力団体の活動発表会及び意見交換会に参加。各河川協力団体が活動内容を発表する会だったが、その席に於いて「河川騎馬パトロール」についての取り組みを発表した。既にご存知の方も多く、活動が成果を現し始めたと感じている。

5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

5-1 プロジェクトM (モンゴル大草原乗馬交流)

単なる乗馬ツアーではなく、公益財団法人ならではの交流事業を実現するため、1990年からの本流事業で培った人脈を頼りに、現地の事情と同時に日本人の性質や文化にも明るいカウンターパート探しを行った。

5-2 日独青少年相互交流計画2016

秋の受け入れ

実施期間	平成28年10月8日～24日 (内13～19日は鳴子泊)
参加者数	ドイツ側 21名(参加者 20名、引率 1名)
活動内容	・蓼科ポニー牧場(周辺散策、ポニー乗馬 等) ・鎌倉観光 ・G ボール体験 ・スポーツ大会 ・自由行動(観光、買い物等)

○ 事業総括

参加者が20名を超える大所帯となったが、初参加のメンバーが多く、好奇心旺盛で受け入れメンバーともとても有効的な交流ができた。プログラムだけでなく受け入れ学生との交流が参加者にとって違った価値観の人とふれあうことで積極性、多角的な物事の見方、ホスピタリティを強く養える機会となった。

○ 今後の展望

近年は、ドイツからの派遣者数に比べて日本からの派遣者数が少なく、今後の望ましい継続のためには、カウンセラーやジュニアカウンセラーへの呼びかけ、ブログやSNS、広場での広報、「国際～学部」のある大学への告知、ドイツ交流に関心のありそうな新たなパートナーの発掘、国際交流事業を行っている団体との関係の構築など、あらゆる手立てを実行し、日本側参加者を増やしていく。

6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

6-1 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

2015年に引き続き月刊紙での発行とした。

サイズは1面がA3サイズで、全面カラー印刷。キャンプに関心がある保護者層（20代～40代）が手に取りやすく、参加する子供達が楽しめる内容にする為、色使いに気を配り、写真を多く取り入れ、内容も毎月楽しめる様にシリーズものを増やした。

また、公益性を重視して記事の内容を作成し、収益性を重視する為に蓼科と小貝川での事業、国際交流事業に多く紙面を割いた。

発行月（28年度） 発行部数（部）

月刊誌 A3サイズ

4・5月	1,500
6月～11月	2,500
12・1月	2,000
2月～3月	2,000

6-2 夏キャンプ募集チラシの発行

機関紙では触れられない各現場までのアクセスやイベントのお知らせを掲載する目的で発行。作成や印刷も各現場で行うことで、増刷、修正、内容の変更についてタイムリーに対応することができた。作成の詳細については以下の通り。

- ① 蓼科ポニー牧場・・・通常営業案内および夏季予約受付、わんぱくポニー村の営業案内。
- ② 小貝川ポニー牧場・・・通常営業案内および「小貝川カヤック教室」の営業案内
- ③ 蓼科ポニーキャンプ・・・デイキャンプのご案内（三井の森に設置）

6-3 WEB広報

(1) Facebook

手軽に更新・情報発信できる利便性を活かして情報発信に努めた。

(2) ブログの運営

事業所単位では、特にポニースクールかつしか、相模原麻溝公園動物広場の更新率が高かった。キャンプの告知はイベント開催毎に行い、他事業所では定期的に更新した。

(3) ホームページ

新旧ホームページを統一以後、閲覧しやすい構成を再構築。新年度からの運営を目指す。

ホームページからの事業申込み（現在のところキャンプ、ドイツ中心）が全体の8割近くになり、時代、希望者ニーズに応えた対応が進んでいる。

7. その他

7-1 規程変更

6月の代表者交代・その後の組織改編を受け、定款他、関連規定の変更を行った。また、年度初めに新たに運用を開始した規程の事業所毎の解釈・運用にばらつきが見られたため、実態の把握に努めると共に、引き続き規程・運用共に改善を加えてゆくこととする。

7-2 馬の管理

菊池顧問のアドバイスをを受け繋養、馬の配置転換、新規購入等を行なった。

財団所有馬88頭・行政（板橋区・海老名市）より預託馬6頭。4頭を売却・譲渡。1歳～6歳の若馬4頭を購入、蓼科での出産2頭、石巻リアスの森より1頭譲り受け。

ポニーステイ事業として、長野県伊那市立伊那小学校にシルフィードを、長野県諏訪市立高島小学校にゴマシオを無償貸与（3月末で終了）。

7-3 人材育成

① ポニーキャンプカウンセラー募集

カウンセラーの募集は昨年度と同様にホームページを中心に行った。大学生のライフスタイルに合わせ、小規模説明会を5、6月の間に4回、10月に1回実施。加えて麻布大学（64名登録）、日本大学（28名登録）、恵泉女学園（10名登録）での訪問説明会を実施。また動物専門学校のTCA専門学校（32名登録）、中央動物専門学校（6名登録）、国際動物専門学校（10名登録）での訪問説明会も実施した。

○ インターネット募集情報掲載：アクティボ、ボランティアプラットフォーム

○ 大学・専門学校募集ポスター掲示 **72校掲示依頼→72校掲示承諾**

小規模説明会は間口を広げるため冬前も1回ずつ実施。カウンセラーの登録に繋がった。またインターネットではアクティボでの募集を開始。大学での訪問説明会は1校増やし、ポスター掲示も8校増。登録自体は昨年より50名増加した。

② 活動カウンセラー数（29年3月時点）

継続登録者数	新登録者数	合計
80	213	290

○ 総評

大学・専門学校での授業の時間をもらっての説明会の実施が好評で50名の登録増につながった。今後も学校での説明でより多くのカウンセラーに登録してもらおうつもりだが、登録のみで参加に繋がらない学生も多く、研修への参加を促していきたい。研修は回数を減らし、一回の参加人数増やし効率をあげるということを目指した。昨年度よりは参加者も増え、効率的にできたと思うが、来年度以降は引率Sも増加するのでより様々なアクティビティで、そして効率的に実施していきたい。

夏前にリスクマネジメントの観点から普通救命救急講習会を実施した。（8名参加）スキルアップと共に、有資格者を有することで団体の安全へのアピールにもなる。今後も継続して実施して行きたい。また、今年度もSAN（Social Active Network of outdoor education：野外教育に携わる団体の中堅スタッフによる任意団体：山本所属）の企画にも参加。新しいスキルを得ると共に、モチベーションにも繋がった様子。今後も積極的に外部の研修にも参加させていきたい。

○ 課題、将来展望

夏キャンプの質を保つためにも夏前の蓼科での研修に多くの新人カウンセラーが参加するように促していくことが必要。カウンセラーの説明会でも推して参加を促していく。

③ 職員研修

日独青少年指導者セミナー、事業所運営に必須となっている動物取扱責任者研修や救命講習といった外部の研修会・講習会に職員を派遣した他、職員の要望を反映して合宿形式の乗馬研修会を実施した。（2/12～16 蓼科ポニー牧場 8名参加）

7-4 会議等

① 理事会・評議員会

○ 第1回理事会（4/22）

1. 臨時評議員会開催の件
2. 処務規程及び職務権限規程の承認

○ 第2回理事会（5/31）

1. 平成27年度事業報告案について
2. 平成27年度収支決算報告案及び監査報告について
3. 定時評議員会開催について
4. 退職金規程、その他規程について

○ 定時評議員会（6/18）

1. 平成27年度貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認の件
2. 新役員（理事）推薦及び選任の件について
- 第3回理事会（6/29）
 1. 代表理事の選定について
 2. 業務執行理事の選定について
 3. 常勤理事、非常勤理事の確定について
 4. 役員報酬について
 5. 臨時評議員会の開催について
 6. 相馬ポニー牧場の原発被害による賠償請求の回答について
- 臨時評議員会（7/18）
 1. 役員等報酬規程の改定について
- 第4回理事会（9/12）
 1. 定款変更の件
 2. 臨時評議員会開催の件
 3. 顧問契約・業務委託の件
 4. 代表理事報酬の件
 5. 規程改正の件
- 臨時評議員会（11/13）
 1. 定款の改定について
 2. 時期評議員候補者選定委員会の設置について
- 第5回理事会（3/23）
 1. 平成29年度事業計画案・収支予算案の件
 2. 定時評議員会開催の件
 3. 不動産購入の件
 4. リゾートホテル会員権売却の件
 5. 日本経済団体連合会、(公社)日本モンゴル協会退会の件
 6. 規程（就業規則、賃金規程、育児介護休業規程）改正の件

② その他

- 新年互礼会（1/18）
- 部長会議（4/19、5/17、6/14）
- 場長会議（6/7、10/18、11/18、12/19、1/23、2/20、3/13）

【会員数】

2015年実績	賛助会員A	531世帯	1,705名
	賛助会員B	35名	
	団体会員	1団体	
2016年実績	賛助会員A	496世帯	1,619名
	賛助会員B	127名	
	団体会員	2団体	

(いずれも12/31の数字)